

令和元年(2019) 県政記録 いしかわ



はじめに

令和元年は、元号が平成から令和に改まり、新しい時代の幕開けともいえる節目の年でした。

石川県にとっては、北陸新幹線の開業効果が高いレベルで持続するとともに、金沢港や小松空港、のと里山空港といった陸・海・空の相乗効果が発揮された一年でした。

また、県内中小企業の頑張りにより、県内経済指標は全国的にも高い水準で推移をしました。

そして、令和元年東日本台風（台風第19号）による2週間の北陸新幹線の運休は、北陸新幹線が東海道新幹線の代替補完機能にとどまらず、日本海側の大動脈であることを示したといえました。

さらに、スポーツの分野では、星稜高校が夏の全国高校野球選手権大会で見事準優勝に輝き、石川県ゆかりの東京オリンピック出場内定選手が相次ぐと同時に、メダル獲得の期待も高まりました。

加えて、国内最大の文化の祭典「国民文化祭」について、新幹線県内全線開業の年である令和5年の開催が内定するという朗報もありました。

一方、全国各地で水害が相次ぎ、特に台風19号では全国でも70以上の河川が決壊するという大災害につながりました。

またCSF（豚コレラ）についても、県内でも野生イノシシへの感染が確認され、その感染防止に全力を挙げるなど、安全安心の確保の重要性を再認識させられました。

そして金沢港の機能強化、国立工芸館、金沢城鼠多門・鼠多門橋といった、東京オリンピック・パラリンピックで多くの方々に石川県へ訪れていただく基盤整備が順調に進むなど、さらなる飛躍に向けて着実に「進歩」した一年でした。

この県政記録は、こうした令和元年における県政の成果をまとめたものです。幅広くご活用いただき、県政に対してより一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

目次

令和元年県政の主な出来事	ページ
1月	2
2月	4
3月	6
4月	8
5月	12
6月	16
7月	18
8月	20
9月	22
10月	24
11月	28
12月	32
石川県民の歌	34

<表紙写真>

(上) 金沢港に初寄港したクイーン・エリザベス
(下) 新規就航した小松・香港便

金沢港
(2019年11月13日撮影)

1月の 主な出来事

10日 ●県内トップスポーツチームと連携したスポーツ教室・職業講話
(～2月25日、7月11日～令和2年2月19日)

県内トップスポーツチームと連携した スポーツ教室・職業講話

(～2月25日、7月11日～令和2年2月19日)



県と県内トップスポーツチームが締結した包括連携協定に基づき、選手たちが県内各地の小中学校へ出向いて、スポーツ教室やスポーツを通して学んだことなどを語る職業講話を開催しました。

県内トップスポーツチームの選手たちとの交流を通じて、本県スポーツの裾野拡大や、各チームを応援する気運の醸成を図りました。

12日 ●自主防災組織リーダー育成研修会
(～13日、19日～20日、26日～27日、11月2日～3日、9日～10日、16日～17日、30日～12月1日、7日～8日、14日～15日)

12日 ●「冬の観能の夕べ」公演
(27日、2月2日、23日、3月2日)

26日 ●兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク(～2月3日、4月27日～5月6日、8月2日～18日、10月20日～11月4日)



●のとてまり感謝祭

28日 ●金沢港県営東部上屋の完成

協定を締結している県内トップスポーツチーム (7チーム)

- ツエーゲン金沢 (サッカー)
- 石川ミリオンスターズ (野球)
- 金沢武士団 (バスケットボール)
- 北國銀行ハンドボール部 HoneyBee
- PFU ブルーキャッツ (バレーボール)
- 金沢学院クラブ (バドミントン)
- ヴァンセドール白山 (フットサル)

兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク

(26日～2月3日、4月27日～5月6日、8月2日～18日、10月20日～11月4日)

「兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク」を季節ごとに開催しました。

県内外の方に石川の文化を発信するために、兼六園周辺の文化施設が連携、一体となって魅力を発信し、大人だけでなく、子どもも楽しめる企画なども行い、多くの方にお越しいただきました。



D-K デジタル掛け軸(夏のミュージアムウィーク)

のとてまり感謝祭 (26日)

奥能登原木しいたけ活性化協議会がブランド化に取り組む原木生しいたけ「のとてまり」が、平成23年に初出荷してから8年目を迎えました。

近江町市場で「のとてまり感謝祭」を開催し、「のとてまり」「のと115」の直売会やきりこ鍋の振る舞いなどを行い、県内外から訪れた方にのとてまり、のと115の魅力PRを行いました。



金沢港県営東部上屋の完成 (28日)



金沢港でコンテナ貨物の荷さばきを行う「金沢港県営東部上屋」が完成しました。

これまで金沢港には上屋が点在していましたが、御供田コンテナターミナル横の東部工業用地に移転・集約することで、作業の効率化を図ります。

上屋は鉄骨平屋建てで、広さは約3千平方メートル。天井には、最大30トンのコンテナをつり上げることができるクレーンも取り付けられています。

東部上屋の完成により、金沢港の物流拠点としての役割が強化されました。



2月の 主な出来事

- 1日 ●金沢城・兼六園四季物語
(～19日、4月5日～11日、26日～5月5日、31日～6月2日、7月13日～14日、19日～20日、8月2日～3日、10日～11日、16日～17日、23日～24日、9月13日～17日、11月2日～24日)
- 1日 ●金沢の冬の誘客イベント「冬の夜のマジカルセッション“出逢い”」
(～23日)
- 5日 ●木場潟東側丘陵エリアの整備・活用に関する(株)小松製作所との協定締結
- 6日 ●いしかわ歴史遺産の認定
- 8日 ●いしかわ百万石マルシェ2019冬
- 9日 ●防災士スキルアップ研修
(11日、17日、3月3日、9日、7月7日、13日、21日、28日、8月3日、4日、10月26日)
- 13日 ●石川県国民保護共同図上訓練
- 金沢城二の丸御殿調査検討委員会中間とりまとめの知事報告
- 28日 ●ホストタウンの登録
アゼルバイジャン、ジョージア
(8月30日:ノルウェー、スロベニア、ロシア)

木場潟東側丘陵エリアの整備・活用に関する(株)小松製作所との協定締結 (5日)



石川県とコマツによる木場潟東側丘陵エリアの整備・活用に関する協力協定締結

木場潟公園東園地および(株)小松製作所の所有地からなる「東側丘陵エリア」の整備・活用に向けて、同社と協力協定を締結しました。県とコマツは「新たな里山再生のモデル」を目指し、木場潟東側丘陵エリアに、かつて身近にあった里山を「学び」、「遊び」、「体験」する場となる東園地や、コマツのものづくり技術を活かした農業の研修・体験農場を整備します。令和5年春の北陸新幹線県内全線開業までのオープンを目指します。



いしかわ歴史遺産の認定 (6日)

いしかわ歴史遺産は、全国に石川県の魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を図ることを目的に、世代を超えて受け継がれている歴史、伝承、風習や有形・無形の文化財をそれぞれ関連づけて、その魅力をわかりやすく説明したストーリーを認定するもので、県が平成27年度に創設した制度です。

4年目となる今回は、加賀市の「大聖寺十万石城下町」、津幡町の「俱利伽羅峠」をテーマにした2件を認定し、これまで認定したものと合わせて、計13件の認定となりました。



江沼神社長流亭 (加賀市)



北国街道俱利伽羅峠道 (津幡町)

加賀市	大聖寺十万石城下町～江戸時代の町絵図で歩ける町～
津幡町	いにしへの記憶をたどる道～俱利伽羅峠～

金沢城二の丸御殿調査検討委員会中間とりまとめの知事報告 (13日)

金沢城二の丸御殿の復元可能性について調査検討を行う「金沢城二の丸御殿調査検討委員会」において、復元整備を具体的に検討できる旨の中間とりまとめの報告がありました。県は、中間とりまとめの内容を踏まえ、御殿の復元の可能性についての調査検討を進めます。

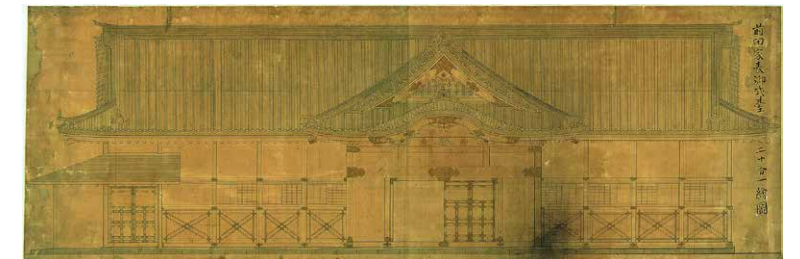


<報告の内容>

- ・復元整備を具体的に検討することは可能。
- ・「表向」は「御居間廻り」や「奥向」と比べて、復元の可能性は大きい。
- ・明らかになった課題についても、引き続き検討を進める必要がある。



現在の二の丸広場



金沢城二の丸御式台絵図
(金沢市立玉川図書館 蔵)

ホストタウンの登録 (28日)

東京オリンピック・パラリンピック参加国・地域と地元自治体の相互交流を促進する「ホストタウン」の交流相手国として、新たに5カ国が登録されました。



志賀町を訪れたアゼルバイジャンの選手たち



<2月28日>

- 登録団体：石川県・志賀町 (共同)
- 交流相手国 ・アゼルバイジャン (事前合宿競技：レスリング)
- ・ジョージア (事前合宿競技：レスリング)

<8月30日>

- 登録団体：石川県・小松市 (共同)
- 交流相手国 ・ノルウェー (事前合宿競技：カヌー)
- ・スロベニア (事前合宿競技：カヌー)
- 登録団体：石川県・穴水町 (共同)
- 交流相手国 ・ロシア (事前合宿競技：テコンドー、パラテコンドー)

3月の 主な出来事

●「北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン」の策定

- 8日 ●大額川通常砂防事業が完成
- 9日 ●いしかわ就職フェアの開催
- 14日 ●「いしかわ男女共同参画推進宣言 企業『女性活躍加速化クラス』認定書交付式(9月26日)
- 15日 ●いしかわスポーツマイレージの配信開始
 - 児童ポルノ自撮り規制等の実施(いしかわ子ども総合条例改正)(制定:15日、施行:5月1日)
 - ライチョウの一般公開開始
 - 岡本急傾斜地崩壊対策事業が完成
- 19日 ●災害救助犬審査会
- 25日 ●ライチョウのオス成鳥1羽を受け入れ
 - 能登牛年間1000頭出荷達成
 - 法島町2号急傾斜地崩壊対策事業が完成
- 31日 ●いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)を通じた移住者数が開設3年間で1,000人を突破

「北陸新幹線県内全線開業に向けたアクションプラン」の策定

北陸新幹線の金沢開業以降、国内外から多くの観光客が訪れるなど、開業効果が持続する中、令和5年春の県内全線開業は、本県にとって、いわば「第二の開業」であり、さらなる交流人口の拡大に向けて、県内全線開業に向けたアクションプランを策定しました。



いしかわスポーツマイレージの配信開始 (15日)



東京オリンピック・パラリンピックを控え、スポーツへの関心が高まるなか、より多くの県民の方にスポーツに親んでもらうとともに、健康増進につなげるため、新たにスマートフォン用アプリ「いしかわスポーツマイレージ」を開発し、配信を始めました。



全国で初めて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の3つの活動でポイント化し、獲得したポイントを使うと、県産品や協賛企業の商品が当たる抽選に参加できます。あわせて季節ごとにキャンペーンを実施し、多くの方に利用していただけよう取り組みました。



ライチョウの一般公開開始、いしかわ動物園ライチョウの峰リニューアルオープン (15日) (ライチョウのオス成鳥1羽を受け入れ (25日)、初の「純石川産」ライチョウの誕生 (7月2日))



いしかわ動物園で、これまで展示していたスバルライチョウに加え、特別天然記念物のライチョウの一般公開を始めました。

公開にあわせてライチョウの峰をリニューアルし、映像やパネルでの解説や、ヒナの重さを体感できるぬいぐるみの展示など、これまで以上にライチョウについて見て、触れて学べるようになりました。

また、オス・メスの成鳥各一羽を受け入れ、ペアで繁殖に取り組んだ結果、5月31日に産卵を確認しました。

7月2日には、繁殖行動から産卵、ふ化まで一貫して取り組んだ、純石川産のライチョウがはじめて誕生しました。



いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)を通じた移住者数が開設3年間で1,000人突破 (31日)

いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)を通じた移住者数が、開設3年間で1,000人を突破しました。ILACは、金沢、東京、大阪の3か所に開設され、移住・UIターンや県内就職を促進するため、求職者と県内企業との就職面でのマッチングや、生活面での支援をワンストップで行っています。

	相談者数	移住者数	就職マッチング件数
2016年度 (ILAC 開設)	2,047	243	147
2017年度	2,873	359	226
2018年度	3,057	425	269
ILAC 累計	7,977	1,027	642



4月の 主な出来事

- 1日 ●県の組織機構を改革
企画振興部「開業企画課」を設置
(1日)
- 「加賀の國」広域観光イベント
(～令和2年3月31日)
- 能登ふるさと博(～令和2年3月)
- 「日本の美は、北陸にあり」
キャンペーン(～11月30日)
- 県央土木総合事務所等の移転

- 3日 ●小松・香港便が新規就航

- 6日 ●百万石まちなかめぐりさくら
2019(～7日)

- 9日 ●石川県森林公園三国山キャンプ場
リニューアルオープン

- 14日 ●金沢城公園鼠多門上棟記念式

- 15日 ●中小企業のAI・IoT導入等に向けた
取り組み
製造工程省力化等支援事業(次世代
ファンド)の公募(～5月31日)
AI・IoTを活用した業務効率化・省
力化支援事業の公募(15日～6月
14日、9月5日～10月18日)

- 15日 ●女性・高齢者の採用・定着支援事
業の開始

- 20日 ●いしかわグリーンウェイブ2019
(～6月9日)
●いしかわ動物園「アシカ・アザラシ
たちのうみ」リニューアルオープン

- 23日 ●「クイーン・エリザベス」が金沢港
に初寄港

- 24日 ●いしかわ観光創造塾開講式

- 28日 ●いしかわ・金沢 風と緑の楽都音
楽祭2019(～5月5日)
●第28回いしかわスポーツ・レクリ
エーション交流大会総合開会式
●いしかわオリンピック特別強化
支援事業指定証交付式
●かほく東西幹線道路(一般県道黒
川横山線)1期区間開通式

県央土木総合事務所等の移転 (1日)



県央土木総合事務所等新庁舎(石川県直江庁舎)を金沢市直江南地内に移転・整備し、1日から業務を開始しました。

新庁舎本館では、県央土木総合事務所のほか、県央農林総合事務所や、関係団体である、いしかわまちづくり技術センターと農林業公社が、別館では計量測定所が執務を行っています。

県央土木総合事務所と県央農林総合事務所を集約することで、災害時等の連携をこれまで以上に強化しました。

小松・香港便が新規就航 (3日)



キャセイパシフィック航空による小松・香港定期便(季節運航)が3日に新規就航し、初便の到着を、多くの関係者が祝福しました。

小松空港の新たな国際路線としては、ソウル、上海、台北便に続き、11年ぶりの新たな国際定期路線であり、国際化がさらに充実することとなりました。

新規就航により、観光面だけでなく、ビジネス面での交流拡大にもつながりが期待されます。

石川県森林公園三国山キャンプ場リニューアルオープン (9日)



石川県森林公園の三国山キャンプ場をリニューアルオープンしました。

三国山キャンプ場は、平成27年4月から地すべりのため休園していましたが、地すべり対策工事にあわせて改修しました。

宿泊施設のログハウスは外装・内装を改修し、エアコンを完備したほか、キャンプサイトには女性専用のシャワー棟を新設しました。

そのほか、トイレを洋式化するなど、多くの方に利用してもらえるよう工夫を凝らしています。

中小企業のAI・IoT導入等に向けた取り組み (AI実践道場(5月23日～6月20日、9月5日～10月3日) IoT実践道場(5月23日～10月31日) ほか)

県内ものづくり企業の競争力強化には、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用した生産性の向上が重要です。

「AI・IoTで何ができるかわからない」「AI・IoTの導入を社内で検討できる人材を育成したい」という県内企業のニーズに応えるために、事例紹介などの座学だけでなく、実機を使った実践型のAI・IoT実践道場を開講しました。



金沢工業大学で行われたAI実践道場



↑ IoT実践道場 ↓



いしかわ動物園「アシカ・アザラシたちのうみ」リニューアルオープン (20日)



いしかわ動物園の「アシカ・アザラシたちのうみ」がリニューアルオープンしました。

いきいきと水中を泳ぐアシカたちを間近で観察できるように、展望スペースをガラス化したほか、ステージ背面に新たな観覧スペースを設けるなど、様々な工夫を行っています。

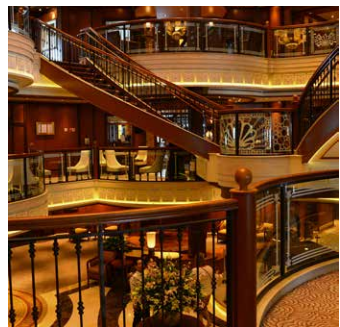
リニューアルに合わせ、カリフォルニアアシカの赤ちゃんもお披露目し、多くの方でにぎわいました。



「クイーン・エリザベス」が金沢港に初寄港 (23日)



豪華客船の代名詞とも言われる「クイーン・エリザベス」が初めて金沢港に寄港しました。横浜港発着のツアーで来港した乗船客約 2000 人が金沢市内をはじめとした各観光地を満喫しました。クイーン・エリザベスを一目見ようと多くの県民が金沢港に押し寄せました。

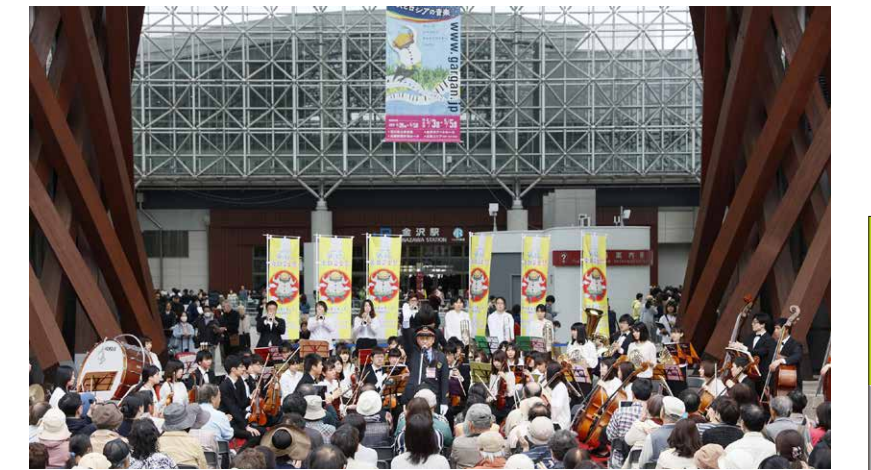


いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 2019 (28日~5月5日)



石川の春を彩る「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」を28日から5月5日までの8日間開催しました。

「北欧とロシアの音楽」をテーマに、県内出身の音楽家による演奏はもちろん、海外からも大編成オーケストラ「エーテボリ歌劇場管弦楽団」を招くなど、全180公演を行いました。



第28回いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会総合開会式、いしかわオリンピック特別強化支援事業指定証交付式 (28日)



いしかわ総合スポーツセンターで、第28回いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会の総合開会式を行いました。

開会式に併せて、オリンピックでの活躍が有望視されている団体に、いしかわオリンピック特別強化支援事業指定証を交付。

この指定証交付式の際には、東京2020オリンピックマスコットの「ミライトワ」と、パラリンピックマスコットの「ソメイティ」が初めて石川県に登場し、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運を盛り上げました。



そのほか、子どもたちのトランポリン体験教室や「いしかわスポーツマイレージ」PRイベントなど、会場では様々な催しが行われました。



ミライトワ (左) ソメイティ (右)



元号が「平成」から「令和」へ

5月に、元号が「平成」から新たに「令和」となりました。
ここでは、平成に石川県へお出ましになった主な行幸・行啓の写真を掲載します。

平成の天皇陛下の主な行幸

○第46回国民体育大会（平成3年9月・10月）



石川県では、戦後間もない1947年以来44年ぶりとなる国民体育大会が開催されました。

「すばらしき君の記録にわが拍手」をスローガンに、国体史上初めて県内全市町村（当時41）に競技会場を設け、県民の温かなもてなしと声援を受けながら、全国から集まった選手が連日、熱戦を繰り広げました。この第46回国民体育大会の開会式に天皇・皇后両陛下をお迎えしました。

○第16回全国豊かな海づくり大会（平成8年9月）

天皇・皇后両陛下をお迎えし、珠洲市蛸島漁港で「全国豊かな海づくり大会」を開催しました。

水産関係者など全国から約1万8000人が参加し、漁業功労者への表彰や海上歓迎行事、放流行事などがあり、石川の豊かな里海を舞台に海の環境を守る大切さを広く発信しました。



○第66回全国植樹祭（平成27年5月）



天皇・皇后両陛下をお迎えして、小松市の木場潟公園で「全国植樹祭」が開かれました。全国植樹祭が、石川県で開かれるのは、1983年以来2回目でした。

「木を活かし 未来へ届ける ふるさとの森」をテーマに、森林資源を適切に使いながら健全な森を次代に伝える重要性を全国に発信しました。



平成の皇太子殿下の主な行啓

○第14回日本ジャンボリー（平成18年8月）



○第16回全国農業担い手サミット in いしかわ（平成25年10月）



○第28回全国「みどりの愛護」のつどい（平成29年6月）



兼六園周辺文化の森において、第28回全国「みどりの愛護」のつどいを開催しました。式典会場となった本多の森ホールには、全国各地から参加者約1500人が集まり、記念式典を開催しました。皇太子殿下はヤマザクラの苗木をお手植えされました。



○第17回日本スカウトジャンボリー（平成30年8月）

珠洲市りふれっしゅ村鉢ヶ崎において「第17回日本スカウトジャンボリー」が開催され、大集会へのご臨席に合わせ、皇太子殿下がご来県されました。

大集会では皇太子殿下が見守る中、各地のスカウトがそれぞれ伝統芸能や特色あるパフォーマンスを披露しました。



- 平成4年 10月 ●第7回国民文化祭
- 平成6年 8月 ●第18回全国育樹祭
- 平成10年 8月 ●第10回全国農業青年交換大会
- 平成15年 8月 ●第9回日本アグーナリー
- 国際障害者スカウトキャンプ大会
- 平成18年 8月 ●第14回日本スカウトジャンボリー
- 第19回JAPAN TENT
- 平成25年 10月 ●第16回全国農業担い手サミットinいしかわ
- 平成29年 6月 ●第28回全国「みどりの愛護」つどい
- 平成30年 8月 ●第17回日本スカウトジャンボリー

5月の 主な出来事

- 11日 ●交通安全県民運動
(～20日、7月21日～30日、9月21日～30日、12月11日～20日)
- いしかわインターンシップフェス
(12月28日)
- 15日 ●ヘルプマークの配布開始
- 20日 ●「能登とり貝」の首都圏PR
- 日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に金沢市を含む全国5市2町が追加認定
- 23日 ●石川県防災会議
●AI実践道場(～6月20日、9月5日～10月3日)
●IoT実践道場(～24日)
- 25日 ●能登牛年間1000頭達成記念行事
- 26日 ●女性消防団員専門知識向上セミナー
●欧州における観光セミナー
(ロンドン:30日、パリ:6月4日)
●欧州ビジネス商談会
(ロンドン:31日、パリ:6月3日)
- 31日 ●影田川3号県単土石流対策事業が完成
●(都)北安江八日市線ほか1路線(広岡～中橋)が完成

いしかわインターンシップフェス (11日、12月28日)



多くの企業や学生が参加する、北陸最大級のインターンシップイベント「いしかわインターンシップフェス」を春と冬の合計2回開催しました。このインターンシップフェスを通じて、より多くの県内企業を学生に知ってもらい、県内就職を促す狙いがあります。

ヘルプマークの配布開始 (15日)

ヘルプマークは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成されたマークです。

石川県でも5月15日から、県障害保健福祉課や県内各市町の障害者福祉主管課などで配布を始めました。ヘルプマークを身に着けた方を見かけたら、公共交通機関では席を譲るなど配慮を心がけましょう。



「能登とり貝」の首都圏PR (20日)

「能登とり貝」は、能登の豊かな自然に囲まれた七尾湾で育てられるとり貝です。一般のもの比べて身が大きく肉厚で、上品な甘みを持つのが特長です。

出荷から5年目を迎え、さらなるブランドイメージの確立や販路開拓を目的に、首都圏の日本料理店や水産流通の関係者ら約50名を招き、都内で初めてPR活動を行いました。



能登牛年間 1000 頭達成記念行事 (25日)



能登牛は当初からの目標である年間1000頭の出荷を達成(3月)したことから、記念行事を開催しました。

記念行事では1000頭達成に寄与した団体、個人を表彰したほか、能登牛認定店によるブースを出展し、来場者は能登牛を味わいました。

次の目標である1500頭出荷に向けて、引き続き官民一体となった取り組みを進めます。

欧州における観光セミナー (ロンドン:30日、パリ:6月4日) 欧州ビジネス商談会 (ロンドン:31日、パリ:6月3日)



東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、新幹線開業後の入り込みの増加が著しい欧州からの誘客や日欧EPA発効を契機とした欧州への輸出拡大を図るため、官民が連携してロンドンとパリでビジネス商談会と観光セミナーを開催しました。

観光セミナーでは、現地の旅行会社などを対象に、自然や歴史・伝統、食文化などの魅力をPRし、石川への旅行商品の造成を働きかけたところ、参加した旅行会社から高い評価をいただき、特にイギリスの富裕層向け旅行会社をはじめとして、本県への送客の意向が示されるなどの成果を得ました。ビジネス商談会でも、欧州向けに新たに開発した地酒をはじめとした県産品が高い評価を受け、具体的な成約に結びついた例も多くみられました。



6月の 主な出来事

●(株)ワイエムシィ本社機能拡充決定

●プラチナルート白山周遊キャンペーン(6月~11月)

1日 ●省エネ家電普及キャンペーン
(~令和2年1月15日)

●白山ろくテーマパーク河合・下野園地の部分供用開始

12日 ●いしかわ耕稼塾開講式

14日 ●ネクストニッチトップ企業育成事業の創設(14日~7月26日)

●金沢錦丘中学校及び特別支援学校の冷房設備の整備完了
金沢錦丘中学校 14日、
特別支援学校 28日

25日 ●北陸新幹線手取川橋りょうが連結

26日 ●白山火山防災訓練

27日 ●株式会社ファーム菜四季
穴水町への農業参入表明

29日 ●兼六駐車場第1期建設工事に着手

(株)ワイエムシィ本社機能拡充決定



分析装置用の充填剤などを製造するワイエムシィが、小松市から土地を取得し、研究棟を新設することを決定しました。

バイオ医薬品市場のさらなる需要拡大などを見据えて、現在京都で行っている研究機能のうち、バイオ医薬品向け分離剤の研究機能を、小松事業所内に移転し、令和4年に開設する予定です。今後、従業員を20人増員する計画です。

白山ろくテーマパーク 河合・下野園地の部分供用開始 (1日)



白山ろくテーマパーク河合・下野園地の部分供用を開始しました。

部分供用を開始したエリアでは、築山でのそり遊びや手取峡谷などの自然風景が楽しめます。



金沢錦丘中学校及び特別支援学校の冷房設備の 整備完了 (金沢錦丘中学校：14日 特別支援学校：28日)

夏場の厳しい暑さに備え、児童生徒の熱中症予防と快適な学習環境確保のため、金沢錦丘中学校と特別支援学校の全ての普通教室、特別教室に冷房設備の整備を完了しました。



対象校： 金沢錦丘中学校
特別支援学校 盲学校以下8校
整備室数：普通教室95、特別教室95 計190室

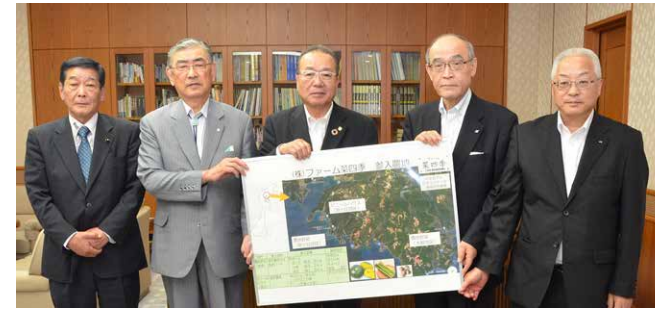
北陸新幹線手取川橋りょうが連結 (25日)



平成27年8月に着工された、「北陸新幹線手取川橋りょう」が連結し、金沢・敦賀間では最長となる558メートルの橋となりました。

今後、レールや架線、通信設備の設置などの整備が進められます。

株式会社ファーム菜四季 穴水町への農業参入表明 (27日)



株式会社ファーム菜四季(さいしき)が、穴水町への農業参入を表明しました。同社は青果卸売業の丸果石川中央青果の子会社であり、遊休農地など10ヘクタールを活用することとしています。

兼六駐車場第1期建設工事に着手 (29日)



兼六駐車場の第1期建設工事の起工式を行い、工事に着手しました。建て替えにあたっては建物を分割して段階的に施工することとしており、第1期については東京オリンピック完成までの完成を目指します。



新しい駐車場は地上5階建てで、全体が完成すると1階には観光バス40台、2階から5階に乗用車480台を収容し、現在と同程度の駐車台数を確保することとなります。

7月の 主な出来事

- のと里山空港の開港16年目の利用者が約17万人となり過去最高を更新
- 1日 ●いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」(~9月30日)
いしかわクールシェア(~9月30日)
- 2日 ●初の「純石川産」ライチョウの誕生
●いきいきシニアドライブ相談会(23日、29日、9月11日、25日、26日、10月16日、25日、11月15日、22日)
- 4日 ●地産地消受注懇談会(4日)
地産地消交流会(10月31日)
- 6日 ●観能の夕べ(13日、20日、27日、8月3日、10日、17日、24日、31日)
- 10日 ●県民一斉防災訓練(シェイクアウトいしかわ)
●第55回献血運動推進全国大会に係る秋篠宮皇嗣妃殿下お成り(~11日)
- 17日 ●「いしかわ縁結び応援隊」の委嘱
- 19日 ●斜面崩落箇所の応急対策工事の完了に伴う白山白川郷ホワイトロードの開通
- 20日 ●高校生のためのいしかわふるさとセミナー(26日)
- 21日 ●のと里山空港夏休み親子マラソン大会
- 24日 ●子ども消防学校(~25日)
- 25日 ●河北潟干拓地「ひまわり村」開村式
- 27日 ●石川県消防操法大会
●高松病院管理診療棟改築工事の起工
- 28日 ●親御さんのための結婚応援セミナー、良縁カフェ(10月26日、11月2日、9日、12月1日)
- 30日 ●いしかわ版里山づくりISOの認証
- 31日 ●「ルビーロマン」東京出荷10周年記念イベント(~8月1日)

第55回献血運動推進全国大会に係る 秋篠宮皇嗣妃殿下お成り (10日~11日)



秋篠宮皇嗣妃殿下が、10日から11日の2日間、「第55回献血運動推進全国大会」ご臨席のため、石川県にお成りになりました。

「献血運動推進全国大会」は、広く国民各層に献血制度への理解と協力を求め、献血運動を全国的な国民運動として推進することを目的に、毎年7月に開催されるもので、石川県では昭和46年の開催以来、48年ぶり2回目となりました。

11日に県立音楽堂で開催された大会では、参加者約1500人が献血運動の一層の推進を誓い合いました。大会ご臨席にあわせて、秋篠宮皇嗣妃殿下は県赤十字血液センターのほか、県立九谷焼技術研修所や県文化財修復工房をご視察されました。

秋篠宮皇嗣妃殿下のご来県は、平成14年の第14回全国生涯学習フェスティバル以来17年ぶりとなりました。



「いしかわ縁結び応援隊」の委嘱 (17日)



県(いしかわ結婚・子育て支援財団)の結婚支援の取り組みや結婚の魅力のPRを目的に、「縁結びist」の仲介による成婚者や県内の若手著名人、スポーツチームに、「いしかわ縁結び応援隊」を委嘱しました。応援隊の皆さんには、自身の活動やSNSなどを通じて、情報発信をしていただきます。



斜面崩落箇所の応急対策工事の完了に伴う 白山白川郷ホワイトロードの開通 (19日~)



大規模な土砂崩れが発生した白山白川郷ホワイトロード(当時)

平成30年12月に、白山白川郷ホワイトロードの石川県側無料区間で発生した大規模な土砂崩れについて、3月に斜面崩落箇所の応急対策工事に着手し、工事の完了に伴い、7月19日に全線開通しました。



「ルビーロマン」東京出荷10周年記念イベント (31日~8月1日)

石川県オリジナルぶどうの「ルビーロマン」が東京市場へ出荷を開始して10周年を迎えました。

そこで、首都圏の消費者や飲食店に感謝するとともに、今後のさらなる飛躍を期待して、海外メディア向け魅力発信フェアやトップセールスなど記念イベントを開催しました。



8月の 主な出来事

●CSF(豚熱)防止緊急総合対策
8月～ 経口ワクチン散布
10月～ 県内すべての飼養豚への
ワクチン接種

- 1日 ●いしかわ動物園開園20周年
記念キャンペーン(～令和2年3月
31日)
- いしかわ百万石マルシェ2019夏
- 6日 ●香港ビジネス商談会
- 7日 ●カジレーネ(株)が増設を表明
- 9日 ●岐阜県との連携によるAI・IoT導
入促進に向けた取り組み
- 10日 ●金沢城鼠多門寄進事業記念会
(～12日、9月14日～16日、21日
～23日)
- 16日 ●2019いしかわミュージックアカ
デミー(～25日)
- 22日 ●第101回全国高等学校野球選手
権大会(甲子園)星稜高校が準優勝
- 24日 ●いしかわ環境フェア2019
いしかわの里山里海展2019
(～25日)
- エシカル・ラボin石川の開催
- 25日 ●大聖寺道路(一般県道串加賀線)
起工式
- 30日 ●いしかわ観光コンシェルジュ
委嘱状交付
- 31日 ●備えて安心!いしかわ防災キャン
ペーン(～9月8日)

CSF (豚熱) 防止緊急総合対策 8月～ 経口ワクチン散布 10月～ 県内すべての飼養豚へのワクチン接種

2018年9月に岐阜県の養豚場でCSF(豚熱)が発生して以降、石川県でもCSFを媒介する可能性がある野生イノシシ(死亡個体)の検査を開始しました。7月に、隣県でも野生イノシシの感染が初めて確認されたことから、県内における野生イノシシの感染状況を確認するため、7月16日からは捕獲イノシシについても検査を開始。8月22日、県内で初めて、白山市において捕獲された野生イノシシの感染が確認されたことから、CSF防止緊急総合対策を実施しました。

<概要>

- ①知事を本部長とする
緊急対策警戒本部会議の開催
(7月12日、30日、10月18日)
- ②養豚農家の対策強化
野生動物の侵入防護柵・侵入防止ネット
の設置、消毒用動力噴霧器の導入等の費
用について養豚農家を支援
- ③野生イノシシへの対策
 - ・捕獲調査(7月～) : 野生イノシシのCSF感染状況を把握
 - ・経口ワクチン散布(8月～) : 野生イノシシに抗体を持たせて、
感染拡大を防止



- ④飼養豚へのワクチン接種
県内すべての飼養豚(約2万1千頭、養豚場15戸ほか)への
ワクチン接種を実施(10月～)



カジレーネ(株)が増設を表明(7日)

合繊織物を製造するカジレーネが、かほく市土地開発公社(旧県立河北台商業高等学校跡地)を取得し、工場を増設する旨の報告がありました。カジレーネが得意とする軽くて丈夫な超薄地合繊織物の生産能力の増強を図ることを目的としています。今後、従業員数約30人を増員する予定です。



第101回全国高等学校野球選手権大会(甲子園)で星稜高校が準優勝(22日)

第101回全国高等学校野球選手権大会(甲子園)で星稜高等学校が準優勝しました。星稜高校の決勝進出は、第77回大会以来2度目で、決勝戦で惜しくも履正社(大阪)に敗れましたが、選手たちの活躍は、石川の夏を大いに盛り上げてくれました。



いしかわ観光コンシェルジュ委嘱状交付(30日)

首都圏・関西圏の大手旅行会社主要店舗の販売担当者11名を、「いしかわ観光コンシェルジュ」に委嘱しました。「いしかわ観光コンシェルジュ」には、石川県への旅行を積極的に薦めていただくことで、県内への誘客を図ります。



9月の 主な出来事

●横浜港発・金沢港着のクルーズに新幹線を組み合わせた「レール&クルーズ」の新たな旅行商品が造成

●金沢港に寄港したクルーズ船の総乗客数が過去最高を記録

2日 ●高橋良定氏を石川県顧問(産業振興担当)に委嘱

8日 ●石川県防災総合訓練

●木場潟パラ・カヌーフェスタ

16日 ●(都)温泉中央南線山中温泉ゆげ街道の完成を祝う会

21日 ●ふるさと石川の医療を守る集いin能登

22日 ●石川県障害者ふれあいフェスティバル

26日 ●障害のある人もない人も共に暮らしやすい石川県づくり条例(共生社会づくり条例)制定(制定:26日 施行:10月1日)

27日 ●「ひやくまん穀」令和元年産新米発売に係る記念イベント(~28日)

28日 ●のと里山空港婚活ツアーin能登(~29日)

金沢港に寄港したクルーズ船の総乗客数が過去最高を記録

今年は50本のクルーズ船が金沢港に寄港し、なかでも総トン数が10万トンを超える大型クルーズの寄港数は過去最高の8本となりました。

また、金沢港に寄港したクルーズ船の総乗客数は、昨年を大きく上回り、過去最高の6万3476人となりました。



金沢港に2隻同時に寄港した様子



石川県防災総合訓練 (8日)

野々市市を中心に、大地震の発生を想定とした石川県防災総合訓練を開催しました。訓練には地域住民に加えて、県と防災に関する連携協定を締結した金沢工業大学等の学生など、約8千人が参加しました。

また、警察、消防、自衛隊、災害派遣医療チーム「DMAT」による合同指揮所の設置・運営訓練を行うなど、災害時の連携を確認しました。



木場潟パラ・カヌーフェスタ (8日)



東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として多くの国の選手に利用されている木場潟カヌー競技場で、英国とカナダのパラカヌー・カヌー選手の協力のもと「木場潟パラ・カヌーフェスタ」を開催しました。

フェスタでは、選手たちとの交流やカヌー体験などが行われ、多くの方でにぎわいました。

フェスタに伴い行われたセレモニーでは、谷本知事が選手たちに「東京2020エンブレム」が入った法被をプレゼントするなど、大いに盛り上がりました。



障害のある人もない人も共に暮らしやすい石川県づくり条例(共生社会づくり条例)の制定(制定:26日 施行:10月1日)

障害のある人もない人も日常生活や社会生活で共に支え合いながら共生する社会の実現を目指し、条例を制定・施行しました。

条例では「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」を全ての県民に求めています。



施行後、街なか等で啓発活動を行いました



10月の 主な出来事

- 名探偵コナン金沢・加賀・小松
ミステリーツアー(～2月)
- 1日 ●「不法投棄等防止強化月間(10月)」
において隣県と連携した取り組み
- 5日 ●第41回石川の農林漁業まつり
(～6日)
- 6日 ●第47回石川の技能まつり
●いしかわ動物園開園20周年記念
式典
●いしかわ動物園フクロウ舎
リニューアルオープン
- 7日 ●金沢芸妓の舞(～令和2年2月9日)
●広域農道 能登外浦4期地区
椎木～飯川谷区間の開通
- 8日 ●技術提案型展示商談会
- 9日 ●シンガポールビジネス商談会
●いしかわ動物園開園20周年
- 13日 ●北陸新幹線東京・金沢間直通列車
の運休(～24日)
- 14日 ●新県立図書館の起工式
- 15日 ●「美味しいいしかわ食べきり協力
店」登録証の交付
●白山室堂公衆トイレの完成
- 17日 ●令和元年東日本台風(台風第19
号)に係る職員派遣
- 19日 ●保護者のためのいしかわ就職セ
ミナー
●いしかわスイーツ博2019(～20日)
●木場潟公園西園地におけるライ
トアップ「点灯式」
- 20日 ●いしかわ文化の日、いしかわ文化
推進期間に各種事業を実施(～
11月3日)
●子育て支援メッセいしかわ2019
- 24日 ●世界陸上競技選手権大会
男子50km競歩金メダル
鈴木雄介選手に石川県スポーツ
特別賞贈呈
- 25日 ●第66回日本伝統工芸展金沢展
(～11月4日)
- 26日 ●令和元年東日本台風(台風第19
号)の被害にかかるボランティア
バスの運行(～12月1日)
●金沢城シンポジウム「近世城郭
金沢城の成立～本丸御殿の時代～」
- 27日 ●小松・上海便の増便
- 29日 ●北陸新幹線加賀トンネルが貫通

いしかわ動物園開園 20 周年 (9日) (いしかわ動物園開園 20 周年記念式典 (6日))

いしかわ動物園が、平成 11 年に卯辰山から移転し、現在の能美市で開園してから 20 周年を迎えました。これまでに県内外から約 670 万人の方にご来園いただきました。

開園 20 周年を記念してキャンペーンを実施し、人気の「ナイトズー」ではプロジェクションマッピングを行うなど、さらなるファンの獲得に取り組みました。



いしかわ動物園フクロウ舎 リニューアルオープン (6日)



いしかわ動物園開園 20 周年記念事業の一環として、フクロウ舎をリニューアルオープンしました。

リニューアルによってガラス張りのスペースを増やし、新たな観覧エリアを設置するなど、フクロウをもっと間近で観察できるような工夫を加えました。

北陸新幹線東京・金沢間直通列車の運休 (13日～24日)



令和元年東日本台風(台風第19号)は、全国各地に甚大な被害をもたらしました。県内に大きな被害はなかったものの、長野県の千曲川が氾濫し、長野新幹線車両センターやその付近の本線等が浸水被害にあいました。

この浸水被害により、約2週間にわたり東京・金沢間の直通列車が運休となり、宿泊施設のキャンセルが相次ぐなど、地域経済に大きな影響を及ぼしました。

10月13日～24日
東京・金沢間の直通列車が運休
10月25日
東京・金沢間の直通列車が運転再開
11月30日
東京・金沢間の直通列車(定期便)が完全復旧

令和元年東日本台風(台風第19号)に係る職員派遣 (17日～)、 ボランティアバスの運行 (26日～12月1日)

長野県から災害派遣要請があり、県職員を派遣しました。職員はそれぞれ災害対策本部支援業務、保健指導、災害査定調査業務など、専門分野で応援にあたりました。



また、長野市から要請を受けてボランティアバスを運行し、石川県から多くの方がボランティア活動に参加しました。



運行日
10月26日、11月2日、9日、10日、16日、17日、
23日、24日、30日、12月1日(計10回)

新県立図書館の起工式 (14日)



金沢市小立野地内で、新県立図書館の起工式を行いました。
建物外観は落ち着いた色合いの大型パネルとガラス面とが交互に折り重なる形で、「本のページをめくる」イメージを表現します。
建物内部は、中央の開放的な吹き抜けの周りを書架が取り囲む、日本国内の公共図書館では類を見ない円形劇場のような大閲覧空間とし、地下は、今後半世紀を見据えて、約200万冊の収蔵能力を持つ書庫スペースとする予定です。令和3年度中の建物の完成を目指し、引き続き整備を進めます。

「美味しいいしかわ食べきり協力店」登録証の交付 (15日)



まだ食べられるのに捨てられる、食品ロス削減に取り組む食品小売店や飲食店等を「美味しいいしかわ食べきり協力店」として登録する制度を創設し、登録店舗（事業者）に対して登録証を交付しました。
協力店では、小盛りメニューの提供や少量パックによる販売、啓発ポスターの掲示など、食品ロスの削減に向けた様々な取り組みを行っています。
食品ロスを削減することは、ごみの発生を抑制し、ひいては地球温暖化防止など、環境を守ることに繋がります。



木場潟公園西園地におけるライトアップ「点灯式」 (19日)

北陸新幹線県内全線開業を見据え、木場潟公園のさらなる魅力向上と利用促進につなげるため、西園地においてライトアップを開始しました。ライトアップは通年で、日没から夜9時まで行っており、木場潟の様々な風景を光の色や動きで表現しています。



世界陸上競技選手権大会男子 50km 競歩金メダル 鈴木雄介選手に石川県スポーツ特別賞贈呈 (24日)



2019年世界陸上競技選手権大会男子50km競歩で優勝した、鈴木雄介選手（能美市出身）へ、石川県スポーツ特別賞を贈呈しました。
贈呈式で、鈴木選手は「金メダルを取る自信はある」と語り、東京オリンピックへの意気込みを示しました。



小松・上海便の増便 (27日)

中国東方航空が、小松・上海便を10月27日の冬ダイヤから2便を増やし、週6便体制での運航を開始しました。増便により、観光やビジネス面などでのさらなる交流が期待されます。



北陸新幹線加賀トンネルが貫通 (29日)

石川県と福井県をつなぐ「北陸新幹線加賀トンネル」が貫通しました。トンネルは約5.5kmの長さで、金沢・敦賀間では県内唯一のトンネルとなります。



県内全線開業に向けて工事を進めています（加賀市内）

11月の 主な出来事

- 1日 ●いしかわパープルリボンキャンペーン2019(～30日)
●児童虐待防止オレンジリボンキャンペーン(～30日ほか)
●いしかわ教育ウィークで各種事業を実施(～7日)
- 2日 ●第10回記念「いしかわ食のてんこもりフェスタ」
●百万石まちなかめぐりもみじ2019(～3日)
- 4日 ●石川県原子力防災訓練
- 5日 ●アパレル産業連絡懇談会(～6日)
- 8日 ●いしかわ並行在来線金沢以西延伸対策検討会
●ふるさと石川就職学生カード ISicaの交付
- 9日 ●いしかわUIターン大相談会の開催
●県道穴水劔地線・町道宇留地越の原線完成
- 10日 ●いしかわ学生防災フォーラム
- 11日 ●高松機械工業(株)増設決定
- 13日 ●CSF(豚熱)感染を想定した防疫訓練
- 21日 ●災害時の要配慮者対策に関する集合研修(～22日)
- 22日 ●いしかわエコデザイン賞の贈賞
- 23日 ●国立工芸館 建物見学ツアー(～12月2日)
- 26日 ●北陸新幹線(敦賀・新大阪間)の環境影響評価方法書の公表
- 27日 ●レスリング世界選手権大会 フリースタイル女子57キロ級金メダル 川井梨紗子選手に石川県スポーツ特別賞贈呈
- 28日 ●令和5年度 国民文化祭の開催地が石川県に内定
- 29日 ●石川県交通安全県民大会
●澁谷工業(株)増設公表

第10回記念 「いしかわ食のてんこもりフェスタ」(2日)



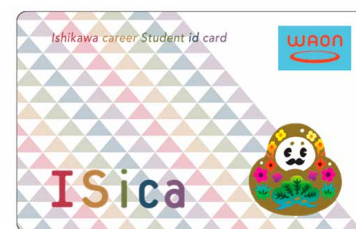
いしかわ四高記念公園を会場に、いしかわ食のてんこもりフェスタを開催しました。今回は記念となる10回目の開催となりました。

フェスタには、能登井や小松うどんなどの定番のご当地グルメや、第10回を記念した特別メニューなど、県内外のグルメが大集合したほか、世界ジェラート大使 柴野大造氏によるトークショーなども行われました。開会に先立ち実施した団結式では、能登井事業協同組合とNPO法人小松うどんつるつる創研に「石川県地域おこしご当地グルメ団体表彰」を贈呈しました。

ふるさと石川就職学生カード ISica の交付 (8日)

石川県出身の学生を対象に、ふるさと石川就職学生カード「ISica」(イシカ)の配布を開始しました。

ISicaは、日常の買い物等で電子マネーカード「WAON」として利用でき、いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)への来所相談や、ILACが主催する就職イベントに参加することで、後日電子マネーと交換できるポイントを貯めることができます。ISicaによって学生の県内企業への関心を高め、学生の県内就職につなげる狙いがあります。



高松機械工業(株)増設決定 (11日)



工作機械等を製造する高松機械工業が、白山市新北部工業団地内の自社敷地に工場を増設することを決定しました。同社主力の自動車業界向け工作機械の増産体制の確立を目的としています。今後、従業員を約40人増員する計画です。

レスリング世界選手権大会フリースタイル女子57キロ級金メダル 川井梨紗子選手に石川県スポーツ特別賞贈呈 (27日)



レスリング世界選手権フリースタイル女子57キロ級で金メダルを獲得した、川井梨紗子選手(津幡町出身)へ石川県スポーツ特別賞を贈呈しました。川井選手は「妹(友香子選手)と金メダルを持って帰れるよう頑張ります」と決意を語りました。

令和5年度 国民文化祭の開催地が石川県に内定 (28日)

令和5年度の国民文化祭の開催地が石川県に内定しました。



国民文化祭は、音楽や芸術、演劇など、全国各地で文化活動を行う個人・団体が、成果を発表・披露する国内最大の文化の祭典です。県内では平成4年以来で、2度目の開催となります。

国民文化祭開催の令和5年には、北陸新幹線の県内全線開業が予定されており、相乗効果で交流人口の拡大と石川県の文化の魅力発信につなげていくこととしています。

澁谷工業(株)増設公表 (29日)



澁谷工業が、能美市福島町の福島グランパークに進出し、新工場を増設することを公表しました。新工場では、同社主力のボトリングシステム等を製造することとしており、今後約20人を地元雇用し、令和3年の操業開始を予定しています。

東京オリンピック・パラリンピックを見据えた個性の磨き上げ

金沢城 鼠多門・鼠多門橋

鼠多門は、城郭建築では例のない黒い海鼠漆喰が特徴の門で、東京オリンピック開催前の完成を目指して工事を進めています。明治期の焼失以来、約140年ぶりに復元されます。鼠多門橋は、玉泉院丸と尾山神社を結ぶ橋で、鼠多門・橋の完成により、長町武家屋敷から尾山神社を経て、金沢城、兼六園、本多の森公園に至る「加賀百万石回遊ルート」が形成されます。



整備中の鼠多門(左)、鼠多門橋(上)

国立工芸館

国立工芸館は、国の地方創生施策の一環として石川県に移転し、日本海側初の国立美術館として開館します。旧陸軍の第九師団司令部庁舎と金沢偕行社の建物を移築・活用して整備しました。国立工芸館は令和2年夏の開館を目指しており、「工芸王国・石川」の文化の土壌に更なる厚みが加わることが期待されます。

●国立工芸館 建物見学ツアー(11月23日~12月2日)

国立工芸館の開館に向けた気運醸成を図るため、建物見学ツアーを開催しました。県内外から1200人が参加し、けやき造りの階段や格子状の天井など、明治期の洋風建築の意匠を復元した建物内部を見学しました。



建物の外観を見学するツアー参加者



けやき造りの重厚な階段(第九師団司令部庁舎)



格子状の天井などを復元した多目的スペース(金沢偕行社)

金沢港クルーズターミナル

金沢港クルーズターミナルは、近年の金沢港に寄港するクルーズ船の増加に対し、乗船客の利便性向上を目的に整備が進められてきました。

令和2年の完成により、乗船客の出入国などの手続きがスムーズになるほか、金沢港湾事務所等の関係機関も一体となることで連携が強化されます。クルーズ船が寄港しないシーズンもイベント等で活用されるほか、夜間には周辺をライトアップするなど、賑わい創出の拠点になります。



建物は旧陸軍の第九師団司令部庁舎(左)と金沢偕行社(右)を移築・活用

12月の 主な出来事

1日 ●いしかわウォームシェア
(~令和2年2月29日)

●直海荒屋道路(一般国道249号)
II期区間起工式

3日 ●「いしかわエコレンジャー」の認定

15日 ●いしかわジュニアアートステージ
2019

17日 ●東京2020オリンピック聖火リレー
ランナー・走行ルートを発表

●世界トランポリン競技選手権大会金メダル
森ひかる選手、岸彩乃選手、高木裕美選手、佐竹玲奈選手、宇山芽紅選手、田崎勝史選手に石川県スポーツ特別賞贈呈

21日 ●のとじま水族館
ジンベエザメ2頭の命名式

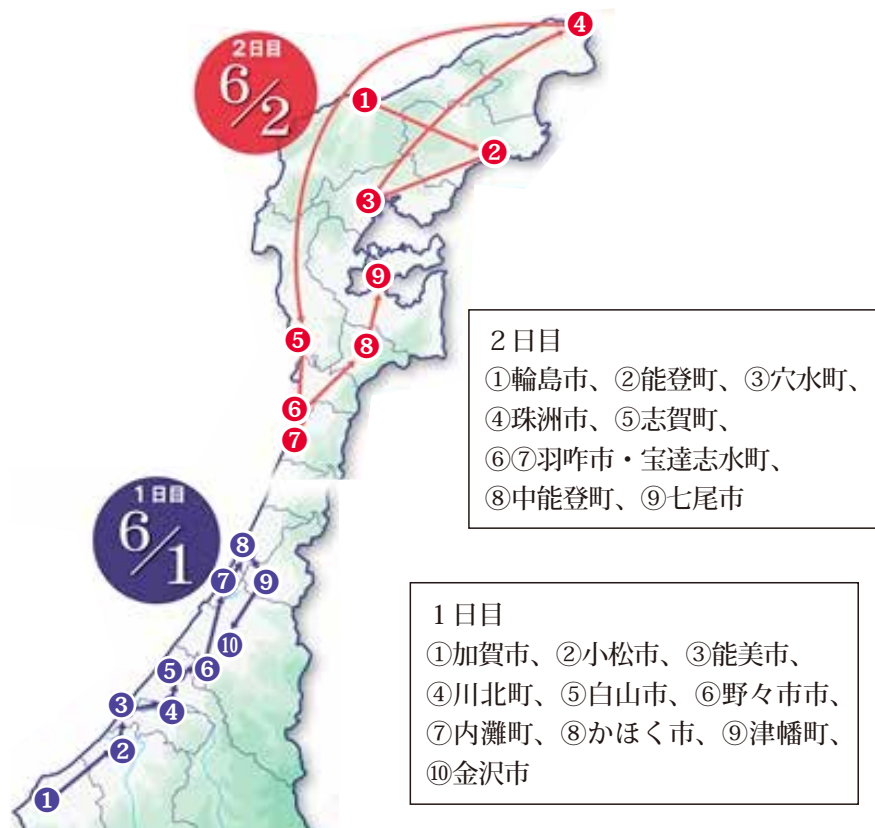
23日 ●防災士知事表彰

いしかわジュニアアートステージ 2019 (15日)



芸術・文化の分野でトップレベルで活躍する石川県の子どもたちがステージ発表や作品展示を行う「いしかわジュニアアートステージ」を開催しました。今年は「和と洋の融合」をテーマに、三味線と吹奏楽のコラボレーション等が行われました。

東京 2020 オリンピック聖火リレー ランナー・走行ルートを発表 (17日)



東京 2020 オリンピック聖火リレーにおける石川県実行委員会の公募ランナー 42名とグループランナー 9名、そして、令和2年6月1日と2日に県内 19市町を巡る走行ルートの詳細を発表しました。

世界トランポリン競技選手権大会金メダル 森ひかる選手、岸彩乃選手、高木裕美選手、佐竹玲奈選手、宇山芽紅選手、 田崎勝史選手に石川県スポーツ特別賞贈呈 (17日)

2019年世界トランポリン競技選手権大会の各部門で優勝した、県ゆかりの6選手へ石川県スポーツ特別賞を贈呈しました。女子個人で優勝した森ひかる選手は、五輪種目で男女を通じ、日本勢として史上初の世界一に輝きました。



(参考：2019年世界トランポリン競技選手権大会)
森ひかる選手 (女子個人、女子団体優勝)
岸彩乃選手、高木裕美選手 (女子シンクロナイズド優勝)
佐竹玲奈選手、宇山芽紅選手 (女子団体優勝)
田崎勝史選手 (男子シンクロナイズド優勝)



森ひかる選手



高木裕美選手 (左) 岸彩乃選手 (右)



宇山芽紅選手 (左) 佐竹玲奈選手 (右)



田崎勝史選手



のとじま水族館 ジンベエザメ2頭の命名式 (21日)



10月からのとじま水族館で展示されている2頭のジンベエザメの命名式を行いました。

1頭は「スズベエ」という愛称で、珠洲市蛸島町沖の定置網にかかったことを由来として名付けられました。

もう1頭は「ナナベエ」という愛称で、のとじま水族館に7番目にやってきたことが由来となりました。スズベエに比べるとやや小さいのが特徴です。

石川県民の歌

行進曲風に

梅木宗一 作詞
窪田新一 作曲

16 *mf*

は く さ ー ん ー に ー あ さ ひ は

は え ー て ー あ お ぐ も ー の ー は れ

mp

ゆ く と こ ー ろ ー な に か お る

れ き し を つ ぎ て む す ば れ し ー わ れ ら け ん み ん

cresc *f*

や く し ん の ー は た を か ざ し て お お わ が

い し か わ ふ る い お こ さ ん ー

三、	二、	一、
日本海 希望の日 いでゆわき この国土 人の和に おおわが石川	加賀平野 海山の うちつどう 工芸の はるかなる おおわが石川	白山に 青雲の 名にかおる むすばれし 躍進の おおわが石川
北にひらけて 明けゆくところ 地はゆたかなり いよ栄えて 世界を結ぶ 歌いたたえん	能登半島に さち呼ぶところ ちまたに野辺に 花咲きにおい 稲田はみのる ひらきのぼさん	朝日ははえて はれゆくところ 歴史をつぎて われら県民 旗をかざして ふるいおこさん

(昭和34年11月3日制定)



石川県旗
(昭和47年10月1日制定)

「石川」の文字と石川の地形をデザイン化したものです。地色の青は、日本海と豊かな緑・清い水・澄んだ空気という石川の恵まれた自然環境を表しています。



郷土の花 クロクロリ
(昭和29年3月19日)

NHKが「郷土の花」として選んだもの。白山の弥陀ヶ原、室堂平（標高2,300~2,500メートル）付近に多く自生しています。風雪に耐えて咲くかげんな姿は、広く県民から親しまれています。



県鳥 イヌワシ
(昭和40年1月1日指定)

白山連峰に生息する日本最大級のワシで、英語でジャパニーズ・ゴールデン・イーグルと呼ばれています。翼を広げると2メートルにもなる雄々しい姿と勇猛果敢な性格は、ますます躍進する石川県を象徴しています。
撮影：須藤一成



県の木 あて
(昭和41年10月1日指定)

緑の環境づくりと木を愛する心を広めようと、県民のみさなから募集して決めました。能登地方に多く生育するヒノキアスナロで、北陸地方では「あて」と呼んでいます。家具や建築材、輪島塗の素材にも多く使われています。

令和元年(2019)県政記録いしかわ

発行 令和2年3月

発行者 石川県広報広聴室
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076 (225) 1362

石川県ホームページ内
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/kouhou/kenseikiroku/index.html>

2019

県政記録いしかわ